

## 福山市環境審議会 議事概要

### 1 日 時

2010年(平成22年)12月21日(火)14:00~16:00

### 2 場 所

福山市役所 本庁舎6階 60会議室

### 3 出席委員

尾島会長,三谷副会長,石川委員,大田委員,高木委員,壺井委員,内藤委員,  
中村委員,三吉委員,森下委員,山本委員

### 4 議 題

- (1) 福山市環境基本計画の進捗状況について
- (2) 福山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定について
- (3) その他

### 5 議事要旨

会議は公開で行われ,議事概要等について公開することです承された。

事務局より,定足数を満たしていることが確認された。

事務局より,福山市環境基本計画の進捗状況について説明がされた後,これらについて意見が出された。

事務局より,福山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定について説明がされ,これらについて意見が出された。

(意見の概要)

**福山市環境基本計画の進捗状況について**

公共交通機関の利用者数が減少しているということだと思うが、これの主な原因は。今は、ゾーンバスシステムとかそういった取組があるが課題や今後の方向性は。

数字が 1,900 万というような延べの人数でカウントしているもので、確かに、委員のご指摘のように、今ではゾーンバスシステムとか、利便性を高める施策も進んでいるところだが、トータルの移動量が下がっているのではないかという推測もある。また 1,900 万の積算もいろいろな施策がすぐ響くようなカウントとなっているのかどうかというようなところも確かにあり、現状のところでは、目標からかなりずれもある。今後、こういった部分を検証する中で、考えようによっては別の指標を用いた方がもっと望ましい効果が現れるのかなというようなことも今考えているところ。この計画は 10 年計画で、5 年程度で見直すこととしている。その際に検討していく。

2018 年度(平成 30 年度)の目標については、どういうことを基準にして立てられたのか、簡単に達成しそうな範囲でできているように思う。

環境部としては「自然と人のハーモニー みんなで創る え～まち福山」を達成するためのそれぞれの基本的な施策を立ち上げる中で、実現可能もしくはこれぐらいは頑張った方が良いのではないかとすることで当然、目標は立てた。もう数年のうちには指標も含めて目標等の見直しは必要だと思う。一年目なので推移を見る中で検討していく。

バスが時間どおりに来ないことが多く、今の状況だと、バス利用者が増えるどころか減るのではないかと思う。市としても、バス会社へお願いしてほしい。

市の所管課の方でもバス会社と協議する場があり、公共交通情報の提供システムや、まわローズなどいろいろな施策を検討する中で一つひとつやっているところ。

まわローズは、当初スタートした頃は乗っている人が少なかったが、今見ると何人かは乗っているようだ。

所管課の方でも、広く PR しようということで庁内的にもそういった取組をしたところであるし、今年度のエコでえ～ことキャンペーンでは、まわローズに乗っても一つマークが付くというようなメリットも付け加えて、エコでえ～ことキャンペーンもまわローズもアピールしたということになっている。そういったことで少し乗車客を見られるようになったということは、前進かと思う。

下水道の普及の問題で、せっかくそこまで下水管が来ているというのに市街化調整区域のために接続ができない所もある。要件を緩和ということが出来ないものかという風に思う。

そのような狭間の区域について2011年度(平成23年度)を目標に見直し、いわゆる効率的な整備手法という言い方をしているが、これについて、検討は行われているということを知っている。

芦田川を守る日の一斉清掃の件で、今後、清掃という名目で、ゴミを拾うということではなくて、水質の問題もあるということであれば広い意味で芦田川を守るという行動を考えていく必要もあるのでは。

一斉清掃というのはあくまで川のごみをきれいにするというのもそうだが、それによって市民の皆さまが芦田川に近づいていただき、芦田川を知っていただく。そこで、ごみのないきれいな所で芦田川に親しんでいただくというのも一つの目標。今後、一斉清掃だけでなくいろいろな取組をされている団体もあるし、もう少しいろんな手法で水質等ももちろん、水質は芦田川の浄化ということで、取り組んではいるけれども、そういったことについては検討していきたいと考えている。

## 福山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について

さまざまな計画について、誘導策を考えないといけないのでは。

具体的な施策の中に未知数であるけれども、今後やっていきたいという施策をいくらか掲げている。そういった中には、事業者への支援策や市民への支援策を、単純に金銭的ということではなくて、情報的な部分とか様々な支援の方法があると思う。そういうものを含めて誘導策については、今後、十分実施できるような形で検討していく。

二酸化炭素排出量削減の目標、期限、そういったものを産業界との間でも結んでいかないと、福山市が目標としているものが遠くなってしまうのでは。

ご意見として承る。

民生の家庭部門の二酸化炭素排出量が非常に悪い。1990年（平成2年）は1.08トン。それが1.92と書いてあるように、非常に排出量が多くなっているようだが、今、計画を実施するにあたって、個々の家庭に普及しないといけない。私は出前講座推進役というものをしているところだが、推進役を全市でやっていこうということで、環境のことなので知識がないと難しいが、家庭から出る排出、これについて、特化して推進していこうということで、今、それを研究し、そういう組織を作ろうとしている。そういう面についても行政の方とも協力しながら、我々も今まちづくりということで進めていこうとしているので、支援をして頂きたいと思うし、我々も頑張ろうという気運が高まっているので、ゼロにはならないだろうが、1990年（平成2年）に近いもののできるような努力をしたいと思っている。行政の方からも一つご支援を頂きたいという風に思う。

これから計画を策定して来年度から施策を進めるつもりだが、住民と一緒に協力を進めたいと思っており、今後、計画の中に生かして、一緒になって頑張っていきたいと思う。

以上